

POPO

2011年
創刊号

社会福祉法人 蒼生会 広報委員会発行



新しい法人のマークができました。このマークには、こんな意味が込められています。

- ・星の左側のちいさな手足は、小さな子どもを表現しています。
- ・星の右側のおおきな手足は、大人や高齢者を表現しています。
- ・そして、子どもと大人が一緒によるこぶ姿が見えてきます。

社会福祉法人蒼生会

理事長 大久保 祐次



蒼生会は、地域に根付いた社会福祉法人として老人ホームや保育園を主に活動を続けて十三年になります。この間、地域の皆様をはじめ、多くの方々にご支援いただきましたことを心より感謝いたします。おかげさまで平成二十二年の四月には、新たに「保育園ピノ」を古淵駅前開設することができ、横浜線を利用して通勤されている方を中心に多くの皆様にご利用いただいております。保育園ピノの開設が地域の保育需要の緩和に少しでも貢献し、皆様のお役に立てることを心より願っております。

私たちは地域の中に染まり、常に「そこにある福祉施設」として皆様が身近に感じ、利用していただけるよう務めています。ですから目立った活動や宣伝じみたものはできるだけ避けて、地域に必要とされるサービスの供給とその質の維持に努めてまいりました。しかし、高齢

者人口が相模原市内でも一番の野中地区にあつて、将来、この地域でどのような福祉サービスが必要とされるかを考えるとき、私たちの努力ではどうしようもないことがいくつかあります。

ひとつには、現在、蒼生会が提供しているサービスでは、ご自宅にお住まいの高齢者に必要なサービスが十分に提供できないという問題があります。高齢化した近隣の住宅事情などを考えると、この地域に在宅サービスを強化していくことは喫緊の課題です。私たちは行政機関や地域の自治会、民生委員、消防団などと連携して地域の見守りや福祉サービスの増強に努めねばならないとの責任感を感じておりますが、どうしても地域の責任を担って動くには限界があります。それは地域包括支援センターなど、在宅支援の中核となる事業を市から委託していただけないことが大きな理由です。私たちは自らの努力でできるだけ地域の高齢者の状況を把握しようとしていますが、十分な情報が入手できないことに苛立ちを感じています。

また、個室型の特養やグループホームなど、利用者の心身の状況に

じた多様な需要にお応えできていないのも大変残念に思っております。行政や関係機関には、ケアハウスの個室などを順次、特養に転換していくアイデアなどを上申してありますが、実情を理解していただき前進するには至っておりません。

蒼生会は、こうした状況をできるだけ早期に緩和できるよう関係機関へ実情を説明し、その解決策を要望するとともに自ら解決に必要な資源の確保にも努めております。私たちは、これからも地域でどんな福祉サービスが必要とされているのかを考えながら福祉サービスの増強に努め、地域に貢献したいと考えています。

これからも皆様のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

諸所の事情により、長らく休刊しておりました「館の夢」に替わって、新たに広報誌「POPO」を発刊いたしました。POPOの名前は、蒼生会が運営する福祉施設「モモMOMO」と「ピノ PINO」を併せたものです。老人ホームモモと保育園モモ、そして保育園ピノや地域の話など皆様にお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。